

本堂修繕 無事終了

六月より本格的に始まりました東園寺本堂平成大修繕が、去る二月二十二日日本堂躯体及び内装工事がほぼ終了し、瓦工事の一部と本堂内の照明工事を残すのみとなりました。当初の行程では九月末までの三カ月で竣工予定でしたが、何分古い建物ですので工事が進むにつれ補修の必要な箇所が大幅に増え、予定を遙かに越える工期となっていました。

さて、今回の修繕に際しましては、写経や特別志納など多くの方々にご協力を賜り誠に有難うございました。追加工事で予算を上回る工事を要しましたが、皆様のおかげさまを持ちまして、修繕事業無事円成となりそうです。特別志納にご協力頂いた方々には、記念品の準備が出来次第御礼に参りますので、もう少々お時間を賜りたいと存じます。また、この間に法要を営まれた方々におかれましては、仮本堂での法要

にご協力を賜り誠に有難うございました。尚落慶式は本年七月に写経参加者各家の代表と特別志納協力者を中心に営む予定です。

松巖山主 成也 合掌





幼稚園で
フラを披露

第10回ハワイ高校生 メモリアルホームステイ



第10回参加者



本年で十周年を迎えるハワイ高校生メモリアルホームステイですが、この度マウイ郡長により平成十六年七月十五日を千坂精道メモリアルデーとすることが通知されました。ハワイ高校生との交流は、先住精道和尚が聖和学園高等学校校長に就任した平成三年よりスポーツ交流というかたちで始まり、塩釜周辺公立高校との交流試合を経て、精道和尚遷化の翌年より日本文化や禅寺での体験を目的としたホームステイにかたちを変えて、精道和尚の遺志を今日まで継承して参りました。精道和尚は最後のハワイ訪問でハワイの方々には十年間のこの交流を継続する旨を申し立てましたが、今回その約束の十年を迎えるにあたり、この交流会を数年の間お休みさせて頂く事になりました。ハワイとの交流を益々盛んにしハワイのお寺が更に興隆せんことを期しての充電期間ですので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながらこの行事を支えていただいた東京龍雲寺様、仙台善應寺様、京都春光院様、(株)白寿殿様、京都白休庵様などたくさんの方縁者に心より感謝を申し上げます。

合掌



自分の作品と



なかなか上手

第10回 精道和尚メモリアルスピーチコンテスト



みんな優秀賞

優勝したボマイ



第十回メモリアルスピーチ



励ましのお言葉
(妙心寺派宗務総長細川景一師)

最後はみんなでフラ!



Aloha! こんにちは。ほくの名前はウルガーボマイです。ことし、ほくはホールド
 ウィン高殿をぞつぎょうしました。ことしの九月からブリガム・ヤング大学ハワイ
 うへいきます。ほくはハワイのおどり、フラ・ダンスが好きです。
 ほくはマウイのフラ・チャンピオンです。高校のバンドにクラリネットをひいて、
 クラスのぶちょうでした。まえにこつフラをやりて日本にきました。てもこのりよこ
 うが一番好きです。たくさんぶんがをならいました。たくさん美しいおてらとほかの
 ぶんがのところはけんぶんがをしました。たくさん美しいじんしゃもけんぶんがをしまし
 た。とてもすごかったです。すべての日本人はとてもやさしいです。ありがとうね。
 ほくはいろいろな人たちにあえてたのしがたです。うんすいはまじめでした。おほ
 うさんはおもしろかったです。とてもあたまがいいです。いつもおほうさんはほくに
 いい食べものをくれました。今ほくのおなががおおくなりました。ありがとうね。
 ようちえんの子もはとてもかわいいです。小さいですがほくよりあたまがいいです。
 子どもはほくにはなしましたがほくはわかりませんでした。子どもはたくさんたを
 しります。ちさがえんちようせんせいはしょうすながしゅです。さいごです。きょう
 とうのはなぞのの高校生に会いました。とてもすごくてたがやさしがたです。は
 なぞのの大学生はほくたちをいもをしにづれて行きました。やさしくて、たのし
 かったです。とてもスタイリーでした。ほくはせんせいになりたいです。日本の
 せんせいはさいごです。ほくは日本のせんせいになりたいです。ちさがのおくさんはたのしいです。
 とてもかわいいです。たえちゃんはかわいいです。ちさがおくさんはたのしいです。
 ちさがえんちようせんせいはとてもすごいです。せんぶん美しいがそくです。ありがと
 うね。ほくはたくさんあたらしいともだちができました。このりよこはほくの一番
 ともだちが小穂(こほやし) ミシャです。日本にきた前、ミシャさんがしりませんで
 いたが今、ミシャさんとほくはいいのともだちです。いっしょうにたくさんおもしろ
 すごしがたですが、ミシャさんはほくをたすけてくれました。ミシャさんはいつも
 ちかくにいます。いっしょうにたくさんおいしい食べものを食べた。たくさんあるく
 のしましうでした。いつもほくたちはみんなのうしろでした。おおぞいてしたから、
 ちさがせんせいの車にいっしょうにたくさんおもしろいうたをうたいました。うた
 ちさがえんちようせんせいごめんね。てもたのしがたね。ミシャさん、ありがとう
 ね。ほくはたくさん人に来て、たくさんならいました。すべての人はとてもやさ
 しかったです。
 ほくの心から、ありがとうございます。

(本人の原稿を尊重しました)

予告

華翁文庫オープン

詳細は次号に…



瑞巖寺129世 素雲軒老大師

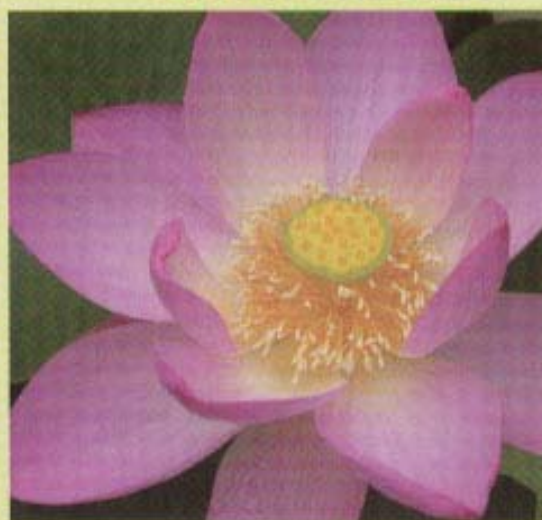
瑞巖寺百二十九世 素雲軒 平野宗浄老師（一九二八〜二〇〇二）は大阪府堺市のご出身で、十七歳にして大徳寺山内真珠庵山田宗憲和尚につき得度され、神戸祥福寺を経て、松島瑞巖寺転じ五雲軒加藤隆芳老師の法を嗣がれました。その後、花園大学で教鞭を執りながら、臨濟録等の唐代の禪語録や大徳寺開山大檀国師、一休禪師や瑞巖寺中興開山雲居禪師等の研究に没頭されますが、昭和六十三年五雲軒老師四大不調の為瑞巖寺に帰山され、平成四年に瑞巖寺に晋山されました。著書として「頓悟要門」「大檀国師訓註」「雲居和尚年譜」「一休と禪」「狂運集全釈」等があります。

素雲軒老師は私にとっては雲水時代にお世話になった参禪の師であります。先住精道和尚と旧知の仲ということもあり、師匠と弟子というよりも、子供のように面倒

を見て頂きました。私が雲水時代に老師の隠侍（付き人）を仰せ付かった折、老師のお供をして本山に向向したことがありました。その帰途大阪空港での夕食の時に、ある寺の和尚に生ビールを勧められた私は、大の苦手であるアルコールに辟易しつつも、供養は何でも有難く受けなくてはならぬ雲水の身ですから、私は決死の覚悟でその大ジョッキと格闘しておりました。老師は気の毒に思ったのでしょうか。「えらいのどが渴いたわー也っさん（道場ではこう呼ばれます。）そのビールわしにくれー」というなりその大ジョッキを見事にイッキ飲み乾されたのです。その姿にビールを勧めた和尚は驚嘆を隠せぬ様子でしたが、私は有難いやら申し訳ないやら、とにかく全身が熱くなりました。老師との思い出は尽きぬものがあります。最晩年には慈雲寺様を会場に毎月臨濟録の提唱をして頂き、再び法の上でもご指導して頂きました。若い僧侶が勉強会を立ち上げたことを老師はたいそう喜んでくださった様子で、風邪をひかれたときでもスカーフを首にまきながら二時間近くも提唱を頂きました。このたび素雲軒老師が収集された蔵書を當山で管理することとなり、老師の道号に因み華翁文庫と名付けて一般に開放出来る事となりました。法財を提供して頂いた素雲軒老師のご家族に心よりお礼を申し上げます。老師の仏法興隆のお志を忘れること無くこれを活用致したいと存じます。

成也記

花祭りの夕



参加者募集 / 平成十六年四月八日午後六時三〇分より
 参加会費 大人 / 三、〇〇〇円
 学生 / 一、〇〇〇円（幼稚園児も含む）

坐
禪
会



毎週日曜
朝七時

於 東園寺教化センター

修繕工事報告

修繕の方法

地下工事 (6月～)



計画では地下室床下に液状コンクリートを充填させ地盤を改良する予定でしたが、床面に鉄筋が無いことが分かり、急速、ねじ込み式の鋼管杭を打ち込み基礎を造り直しました。工期の遅れの大きな原因はこの地下工事の変更の為でした。



原因はこの地下工事の変更の為でした。

耐震壁工事 (7月～)



鉄筋や碎石(川砂)にコンクリートが充填されていない箇所が認められ「かみなりおこし」のような状態の箇所も多数ありました。これに対しては耐震壁の面積を増やすと同時に、補修予定のなかった柱梁に関して補強とコンクリート中性化防止の対策を講じました。

耐震壁設置の為に建具を撤去すると予想以上にコンクリートの状態が悪いくことが分かりました。特に壁面の下部で顕著で、

屋根



屋根の修繕も、躯体のねじれが屋根まで及んでいた為、大変苦心したようです。銅板での葺き替えにより、屋根の軽量化が図られ、さらに耐震性が向上したのもと思われま

す。

教化センター



基礎工事の為、内装をすべて撤去せざるを得なかった本堂地下教化センターは、新たに厨房や空調室などが設置され、坐禅会や通夜など多目的に使用できる空間となりました。また瑞巖寺先住素雲軒老師の蔵書を中心とした華翁文庫も併設され近日中に公開されます。

本堂通路



迷路のようだった本堂へ至る階段も大幅に改善されました。また本堂より直接二階大書院に上られるようになりました。



幼稚園だより

塩釜中央幼稚園
塩釜第二中央幼稚園



たのしいおもいでいっぱいのおねかん。



入園式



花祭り



プール遊び



体育教室



七夕祭り



遠足





運動会



盆踊り大会



成道会お遊戯会



いもほり遠足



お店屋さんごっこ



もちつき



涅槃会

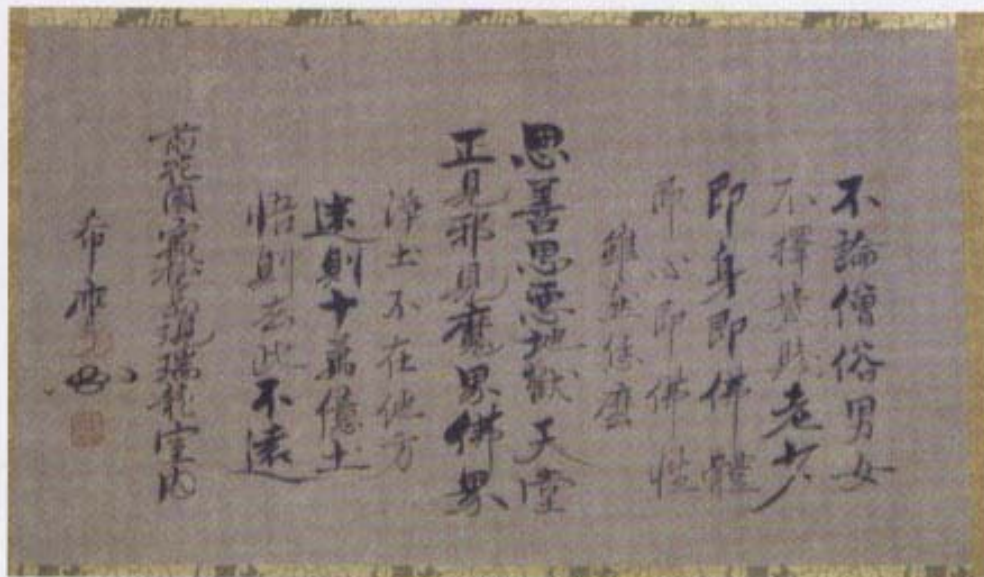


節分

寺庫紹介

雲居希膺禪師 法語

(特賜慈光不昧大悲円満国師)



雲居禪師墨蹟

雲居禪師は土佐の出身で土佐中村太平寺の真西堂のもとで出家、妙心寺一宙東黙の法を嗣ぎ、伊達忠宗公の帰依をうけて松島瑞巖寺の中興開山となり、今日の瑞巖寺の隆盛の基礎を造った。万治二年遷化 世寿七十八。

雲居禪師は念仏禪を勧めたことで知られる。これは、当初政宗公の正室愛馬姫やその娘五郎八姫を慰める為に、平易に禅要を説いた往生要歌を作成し、これを皆で唱えたことに始まる。この往生要歌は昭和四十年代まで松島の女性たちにより誦誦されてきており、このことは禅の本場である中国では当然として行われている禅と念仏の習合が、本邦で実際の仏事として実行されてきた興味深い例と言える。

さてこの墨蹟はその往生要歌で最も喧伝された部分「阿弥陀仏悟れば即ち去此不遠迷えばはるか西にこそあれ」(阿弥陀仏様は決して遠くにいるのでは無い。悟ってしまえば、我々の住む世界にこそ浄土そのものである。)とその背景である本覚思想(衆生は元來悟っているという考え方)に端的に書いたものである。要約すれば、「老若男女を問わず仏の心はすべてのものに備わっている。浄土は他にあるのでは無い。迷っているうちは、十万億土の向こうに感じるであろうが、

悟れば決して遠くはないのである。」という意味になる。

「去此不遠」という言葉は浄土三部経の一つ「観無量寿経」に由来するものである。「観無量寿経」は釈尊の最初の外護者ともいえるピンピサーラ王が、息子アジャータシャトルにより七重に塀を廻らした牢獄に幽閉され殺害された故事に基づくもので、絶望の淵にあるピンピサーラ王とその妻ヴァイデーヒー夫人に対して釈尊により説かれたものである。この経の中にはこの此土浄土(我々が生活するこの場所こそが浄土であるという考え方)を体験する為に様々な瞑想が勧められており、夕日を見ながら浄土をイメージする方法や、きれいな水面に瑠璃光世界をイメージする方法等が説かれる。

瞑想と坐禅は別物であるというのが禅宗の考え方であるが、禪師が坐禅されたという松島雄島の水面間近の石窟や、禪師が愛してやまなかつた山々の夕日に接すると、実に上記の観無量寿経の瞑想の場面と合致する。「浄土は他方にあらず」という言葉は、愛馬姫や五郎八姫を慰める方便として説かれたものでは無く、宗教的な実体験に基づいてこれを勧めたのではないかと思えるのである。

宗教法人 東園寺 〒985-0026 塩釜市旭町4-1

学校法人 東園寺学園 〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51

代表役員 千坂成也 理事長 千坂秀也 花園会・会長 阿部久壽

022(362)0777 寺務所
022(362)8651 中央幼稚園
022(365)5616 第二中央幼稚園
022(364)4444 FAX
022(356)2933 ザ・ゼンクラブ